

2025 年度共通テスト『情報Ⅰ』の概観 ～大学入試センターへの忠言を添えて～

愛知県立高蔵寺高等学校 教諭

田中 健

1. はじめに

「こんな問題が出されるんなら情報の先生なんか要らんよね」

長らく(おそらく現在も)議論が重ねられて 2025 年度、遂に大学入学共通テスト(以下、共テ)の出題科目になった『情報Ⅰ』。その出題内容が大いに期待されていた反動であろうか、問題冊子に一通り目を通すに、冒頭の落莫とした感想を抱いたのは筆者だけではないはずである。本稿では、初めて実施された共テ『情報Ⅰ』の出題内容と受験データから全体的な傾向を概観するとともに、高校 3 年生の知能検査とも揶揄されそうな当該試験に対する筆者の私見を諸々記したい。

なお、本稿で言及する対象は 2025 年 1 月 19 日実施分『情報Ⅰ』の本試験問題である。また、運営元である大学入試センター(以下、DNC)にも相応の事情や多様な斟酌があつての出題と理解した上で、の原稿であり、DNC を非難する目的は全くないことをお断りしておきたい。

2. 受験データと出題内容

DNC が公表している 2025 年度実施分『情報Ⅰ』の受験統計¹⁾は次のとおりである。

[試験時間・配点] 60 分・100 点満点

[平均点] 69.26 点 [受験者数] 279,718 人

全受験者の平均点が共テの目指すところより高く出ているものの、本試験全体の受験者数 461,505 人に対する『情報Ⅰ』の受験率は約 60%であり、受験者数では国語や外国語(英語)の 3 分の 2 にも満たない。点数に関しては、受験必須とする国公立大学の希望者以外が忌避した可能性、つまり学力層では上位にあたる受験者が多く含まれた結果とも考えられる。よって、難易度を「簡単すぎた」と断ずるのは早計であり、今後のデータ精査が求められる。

深度にこそ差があるものの、出題分野は次のとおり学習指導要領掲載の単元全 4 編からまんべんなく採用されており、2022 年に公開された試作問題に類似した出題分野傾向と大問構成であった。

[設問数] 大問 4 問、マーク数 47 個

<第 1 問>

- 1 デジタル署名と IP アドレス(情報セキュリティ、ネットワーク)
- 2 7セグ LED の表示(情報のデジタル化)
- 3 チェックディジット(通信の信頼性)
- 4 GUI のユーザビリティ(情報デザイン)

<第 2 問>

- A レシートの印字内容(POS システム、データベースの活用)
- B 用意すべきお釣りの枚数(シミュレーション)

<第 3 問>

担当割当の自動化プログラム(アルゴリズム、プログラミング)

<第 4 問>

旅行・観光消費動向調査の分析(データの分析)

第 1 問はセキュリティ・ネットワーク・情報のデジタル化・情報デザインからの、問題文が比較的短い小問集合。第 2 問はレシートに印字されたデータの特徴と取り扱いについての A、事前に用意すべきお釣りのシミュレーション結果についての B に分かれた中間形式。第 3 問は工芸品の作業割当を自動化するアルゴリズムを問うプログラミング。第 4 問は観光に関するデータを用いたグラフや図の読み取りについて出題された。

サンプル問題や試作問題の傾向と同様、教科「情報」の学習内容が紐づいた日常生活の一場面が題材になっており、高校生が解くには専門的すぎると思われる情報技術そのものに踏み込む問題は見られなかった。共テ 2 日目の最終時限で実施される日程か

ら想像するに、疲れ切った脳を再起動させ、最大効率で題意を読み取り、解答に結び付ける能力が肝要であったと推察される。

3. 思考力が発揮される問題とは

然りとて、DNC が発表した問題作成方針²⁾の骨子になる「深い理解を伴った知識の質を問う問題や、知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことを求められる問題」に鑑みれば、残念ながら適切な出題であったかどうか疑わしいものも少なくなかったと考えられる。その代表例として夙に指摘されているのが、第2問Aの間2、第4問の間4コであろう。

ただ、この2例については、解答上の弊害はない。他方、ネットショッピングサイト(以下、サイト)と会員情報管理システムの連携について問われている、第2問Aの間4ケを今一度考察してみたい。

この場面では、それぞれを連携させるメリットを得るための条件として、「あ」では住所が追加で登録された会員ID、「い」では実店舗と同じ商品コード、「う」では該当店舗での商品の在庫数が正しく紐づいていることが必要になる。これに思考を巡らせて条件の要／不要を判断すると、おすすめ商品は顧客の購入履歴をもとに表示されることから、「あ」と「い」が必要になるところまでは合理性がある。

では、「う」の実店舗の在庫数はどうだろうか。もちろん、当該設問では引き当てる在庫に対しては触れられていないため「過不足なく」という問題文の条件からは外れることになる。これは厳然たる事実である。

しかし、筆者の体験をもとにした勘繰りで恐縮なのだが、このサイトの在庫引き当て先が一点モノを扱う実店舗の在庫を兼ねている場合には少々勝手が違ってくる。既に店頭販売で売ってしまった商品がサイト上でおすすめとして表示されるケースが想定され、その結果として、サイトのユーザビリティが下がる虞がある、というのは考え過ぎだろうか。これ欲しいとクリックした商品が在庫切れで落胆、そんな体験から、解答中不覚にもあらぬ方向に意識をもっていってしまった。

前述の例は突飛かもしれないが、日常生活の一場面を想定した問には、原則(一般論)にとどまらない例外(レアケース)が限りなく存在するところに教科

「情報」の作問の難しさがある。筆者も共テに類似した問題を作問する機会に恵まれた立場であるからこそ、そこに「正解を一つに絞るための仕掛け」を恙なく^{あんなばい}按排する必要性を現在進行形で痛感している。各個人の脳内で大いに発散する思考の行き着く先を一意の正答に収束させる——そんな遠大さが「思考力が発揮される」問題にはある。

4. 2026年度に向けて

ともかくにも、初年度『情報Ⅰ』が大きな混乱なく実施されたことにはDNCの腐心を讃えたい。そして気早ながらも、進路指導に携わる者にとって一種のお約束と脳裡に浮かぶのが、「2年目の難化」である。

しかし、初年度の本試験が^{かよう}斯様であった『情報Ⅰ』に限れば、その難化は「次こそ日々の授業内で培われた知識の質が問われ、日常生活に照らし合わせた思考力が求められる」ようになることに他ならないと好意的に捉えることもできるだろう。それは同時に、2025年度の問題のように世の情報の先生を落胆させることなく、情報の先生の存在価値を下支えする効果を有するものになる筈である。

以上より、2年目共テ『情報Ⅰ』に向けた現場への提言は、昨年度i-Netの拙著³⁾主張と寸分の違いもない。「深い理解を伴った知識の質」向上のため、日常生活との関わりを教材に絡め、教員のもつ教科「情報」の専門性を日々の授業で遺憾なく発揮すること、である。

既に2026年度の共テ『情報Ⅰ』の問題が楽しみで致しかたない。

参考文献

- 1) 大学入試センター、「令和7年度大学入学共通テスト実施結果の概要」(2025年2月6日公開)、<https://www.dnc.ac.jp/news/albums/abm.php?d=430&f=abm00005260.pdf>
- 2) 大学入試センター、「令和7年度大学入学選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針」(2023年6月9日公開)、<https://www.dnc.ac.jp/albums/abm.php?d=487&f=abm00003581.pdf>
- 3) 田中健、「教科『情報』への閑却に物申す～国公立大学共通テスト「情報Ⅰ」配点割合の不可思議～」、i-Net 第68号、数研出版、2024年5月